



令和7年の病害虫の発生と防除

農林水産省消費・安全局

植物防疫課防除対策室
農産安全管理課農薬対策室

令和8年の病害虫防除シーズンに向けて、令和7年の天候経過、主要病害虫の発生概況、植物防疫事業の概況等を取りまとめたので、今後の病害虫防除対策の検討資料として紹介する。また、令和7年に都道府県から公表された病害虫発生予察情報（11月14日まで。注意報、特殊報）について、表-2に取りまとめたので、本文での病害虫発生状況の記述と併せて参照されたい。

I 天候経過の状況（気象庁報道発表資料より抜粋）

1 令和6年～7年冬（令和6年12月～令和7年2月）の特徴

（1）気温は、寒気の影響を受けやすかった沖縄・奄美でかなり低く、西日本で低かった。

（2）降水量は、低気圧の影響を受けにくかった北・東・西日本太平洋側、西日本日本海側、沖縄・奄美でかなり少なかった。特に、東・西日本太平洋側では1946/47年冬の統計開始以降で冬として1位、西日本日本海側では1位タイの少雨となった。一方、冬型の気圧配置の影響を受けやすかった東日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側でも多かった。

（3）日照時間は、冬型の気圧配置の影響や高気圧に覆われて晴れの日が多かった北・東・西日本太平洋側と西日本日本海側でかなり多かった。特に、東日本太平洋側では1946/47年冬の統計開始以降で冬として1位、北・西日本太平洋側では1位タイの多照となった。

2 令和7年春（令和7年3月～5月）の特徴

（1）気温は、北日本を中心に暖かい空気に覆われやすかったため、北日本でかなり高く、東・西日本で高かった。

（2）降水量は、低気圧や前線などの影響を受けやすかった北日本日本海側と北・東日本太平洋側で多かった。

（3）日照時間は、期間を通じて低気圧の影響を受けやすかった北日本日本海側と北日本太平洋側で少なかっ

た。また、低気圧や前線の影響を受けやすい時期のあつた東日本日本海側と東日本太平洋側でも少なかった。一方、沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすい時期があつたため、日照時間が多かった。

3 令和7年夏（令和7年6月～8月）の特徴

（1）気温は、夏を通じて偏西風が平年より北に偏つて流れやすく、暖かい空気に覆われたため、北・東・西日本でかなり高く、1946年の統計開始以降、それぞれ夏として1位の高温となった。また、全国153の気象台等のうち132地点で、夏の平均気温が歴代1位の高温となった。日本の夏の平均気温の基準値からの偏差は+2.36°Cとなり、統計を開始した1898年以降の夏として1位の高温となった。

（2）降水量は、太平洋高気圧に覆われやすく、前線や低気圧の影響を受けにくかった北・東日本太平洋側でかなり少なかった。

（3）日照時間は、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、北・東・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側でかなり多かった。

4 令和7年秋（令和7年9月～10月）の特徴

（1）気温については、9月は暖かい空気に覆われやすく、暖かい空気が流れ込んだ時期もあったため、全国的にかなり高かった。太平洋高気圧に覆われやすかった沖縄・奄美では晴れた日も多く、1946年の統計開始以降、9月として1位の高温となった。10月は上・中旬を中心に暖かい空気に覆われた西日本と沖縄・奄美でかなり高く、沖縄・奄美では1946年の統計開始以降、10月として1位の高温となった。

（2）降水量については、9月は太平洋高気圧に覆われやすかった沖縄・奄美ではかなり少なかった。10月は低気圧や前線の影響を受けやすかった東日本日本海側と、下旬を中心に関東低気圧、湿った空気や前線の影響を受けやすかった沖縄・奄美で多かった。

（3）日照時間については、9月は日照時間は、高気圧に覆われて晴れた日が多かった北日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多かった。10月は停滞前線の影響を受けやすく曇りの日が多かった東日本太平洋側でかなり

Occurrence of Pests and Diseases and their Control in 2025 in Japan. By Plant Protection Division, Food Safety and Consumer Affairs Bureau, MAFF

（キーワード：令和7年、病害虫、発生動向、農薬、出荷状況）